

大好き！岐！ 紹介「しまおこし人」

vol.1

第1回

馬場裕司さん(37歳)



岐FM・寝言の
ユウジさん

郷ノ浦町、岐マリナーホテルに夜勤で勤務し、家業として子牛の生産に取り組んでいる馬場さん(芦辺

町諸吉本村触)。毎週水曜日の午後1時からと木曜日の午後2時から、いずれも30分間、76・5メガヘルツの岐FMの番組「海賊の寝言」のパーソナリティーを担当、大好きなサーフィンや釣り、磯や浜辺での遊びなど海での出来事をテーマにしなが、毎日の生活の中で見聞きし、体験したことなどを織り交ぜながら、多くのリスナーに伝えている。

自分にとっての「岐」は「海」そのもの。そんな「海」について、また「海」を通して感じて



がある。海に入りサーフィンをするのは一人なんだけど、一人ひとりのつながりには安心感がある。この感覚が言葉では表現できないくらいに素敵だし素晴らしいと感じている。

この感覚は、人としてとても大切な感覚ではないかと感じている。ここにたどりつけたのは、幼い時の海との接し方や変わり方が大きなウエイトを占めているはずで、それが今の自分につながっている一とも。



ド。曲作りには、魚釣りやサーフィンなどをしている時に感じる様々な海の表情、たとえば波が強かったり弱かったり、美しく思えたり、感動だったり恐怖を意図する瞬間だったり、海の不思議さや驚異を覚える瞬間だったり、そこから得るインスピレーションが大切。説明しようとする、とつてつけたように妙に理論的になってしまいが、海との引出しが増えることが、自分の歌、心の成長につながっていくのでは。人生を卒業するころには何かの答えに近づけるかな？

これから

岐の海の幸、山の幸、遊びなど、美しく楽しく美味しい一学びも含めた岐の魅力を発信し続け広めていきたい。

島外から大勢の人に旅してもらい、岐の魅力をつぶり味わってもらおうという点につなげられないものか。そうした流れの中で何かの役に立てればと考えている。

音楽活動

自分でつくった歌・オリジナルの作品をギターを弾きながら歌うギターの弾き語りというスタイルでステージで演奏したり、時にはバンドを即席で組んで演奏している。

ここでも「海」がキーワード

春の陽気におおくのひとで 家族でサクラを楽しむ市民も ～郷ノ浦町、弁天崎公園～



は、この日も多くの人があり、家族で弁当を広げたり、芝生でのんびりと昼寝をする姿も見られ、暖かな春の一日を楽しんでいた。

同町、戎谷清さん、辰子さん夫妻も、芦辺町に住む孫の梅嶋詩織ちゃん(10)、謙伸くん(8つ)、隼人くん(5つ)の3人と同公園を訪れ、岐法人会が平成10年に植樹、だいぶ大きく育ってたくさん美しい花をつけた岐のヤマザクラのそばに陣取り、孫たちとのふれあいの時をゆっくりと過ごしていた。

謙伸くんは「みんなでサッカーもできたし、とっても楽しい」と、Vサインをしながら満面の笑顔で話してくれた。

残念なことには、この後だんだんと風が強まって、台風を思わせるような大シケでフェリーが欠航するほどの荒天となり、すっかり花が吹き飛ばされてしまったように見える木もあった。

投稿

カラオケ演歌の 小さな旅

芦辺町 大川醒成

私は数年前から、岐市外の各地に、カラオケ演歌のひとり旅をしています。

旅の途中では、車窓から眺める美しく心休まる風景、見上げる満点の星空と感傷、そんな旅の趣への一興とが相和して、心のエネルギーとなり自然に高まってきます。カラオケ演歌にもそこそこで色とりどり、様々なドラマがあり、歌う心に更なる彩が加わりま

す。

そんな旅を続けていると、多くの人たちとの出会いやステージなどからも、新たな人生のための湧水、パワーを、喜びとしていただいているようで、歌によるこの積み重ねが、世界の平和、宇宙の平和利用につ

ながらないものかと、夢がふくらんでまいります。

この喜び多きカラオケ人生の舞台では、ステージの中央から、ストレス多い日々の生活で疲れた心を少しでも癒せるように、またそうした歌心が届けられるよう、メロディーはもちろん歌詞にも心を込めて歌い、ほんの一瞬でも、私とお客様が幸せ感を分かち合いたいと思っています。

また、スタッフの皆さんの協力を得ながら、立体的で厚みのあるステージを創り上げることで、皆がリフレッシュして、明日への力のような感覚を味わってもらいたいものとも思っています。とにかく多くの方たちとそんな感覚、幸せ感を



諫早市でのコンサートでダンディに歌う大川さん

《岐新報川柳》 三月 兼題「のびのび」

岐川柳会
竹尾 久恵 選

のびのびと暮らしてみたい
籠の鳥 仙京
脱サラで夢の漁師になりま
した 健人
菜の花の黄はのびのびと春
謳歌 伸吾
のびのびの付けが追ってく
年の暮れ 伸幸
のびのびとせんと冷めた
お茶を出し 愛郷
帰省した子の大の字を笑う
母 伸吾
のびのびと田舎の男尿する
アスパラののびのび育つ知
恵と汗 篤世

曲水の宴十二単衣でのびの
びと 妙子
のびのびと寛いでいる妻の
旅 星舟
のびのびと朝寝実家の古畳
のびのびと育てたつもり気
ままな子 伸幸
のびのびと残る余生に歩を
のびのびと残る余生に歩を
合やす 扶巳
被災地の芯の復興ののびの
びで 春菜
のびのびになった約束境界
のびのびになった約束境界
被災地を癒す野球をのびの
びと 綿代
被

俳句

わかば句会

野も山も優しくなりぬ桜咲
く 大島 美代子
山鳩の胸毛逆立つ春の風
柳澤 幸子
木蓮や母の香りを包み来る
品川 京子

